

2024 年 12 月 5 日

報道関係各位**欧州向け医薬品の物流において、
再利用可能な環境配慮型温度管理容器を採用した輸送を開始**

大塚製薬株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:井上 眞、以下「大塚製薬」)は、このたび米国向けに加え、欧州向けの一部医薬品の物流においても、再利用可能な環境配慮型温度管理容器(非電源のパッシブ型容器)を採用した輸送を開始しました。輸送に利用した温度管理容器を回収・再利用することで、限りある資源を有効活用することができ、また新たに製造する際に発生するCO₂を削減することが可能となります。大塚製薬は、サプライチェーン全体におけるCO₂排出量削減の推進に取り組むことで、より総合的な環境負荷低減を目指します。



大塚製薬で使用する環境配慮型温度管理容器
(サイズ: 155 cm x 132 cm x 158 cm)

医薬品の輸送には、品質保持の観点から適切な温度管理が求められており、大塚製薬においても温度管理ができる容器を用いて、各製品に適した温度条件下での輸送を行っています。従来使用していた国際航空輸送における温度管理輸送容器は、一度使用後に破棄するものでしたが、環境配慮の面から、2024年2月より米国向けの一部医薬品において、再利用可能な環境配慮型温度管理容器を用いた輸送を開始しました。さらに、11月から、欧州向けの一部医薬品においても同じく再利用可能な環境配慮型温度管理容器を採用しました。

当取り組みにおいては、日本通運株式会社(本社:東京都千代田区)とアンバリゾ社(本社:フランス)が連携し提供する温度管理輸送サービスを採用しています。輸送に使用する環境配慮型温度管理容器は、医薬品が輸送先に到着した後回収され、専用施設にて洗浄・必要な補修を行った後に、品質確認を行い外箱を新しいものに取り換えた後、再利用されます。このサイクルで使用された容器は、約30回程度繰り返し再利用することが可能です。



環境配慮型温度管理容器再利用の流れ

大塚製薬では、今後も新しい技術やソリューションの活用、ビジネスパートナーとの協働を通じ、環境負荷低減の取り組みを進め、脱炭素社会ひいてはサステナブルな社会の実現への貢献を目指してまいります。